

### 3 自立活動

自閉症の障害特性に応じた指導や支援のために、特別支援学校学習指導要領の自立活動の視点は大変重要となります。自立活動の目標には「…障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、…」と書かれています。

自閉症の特性を有する子どもにとっての自立活動は、社会性や対人関係等のつまづきや困難さを改善・克服し、学校生活や社会生活の基盤となる力を育てることにつながります。

自立活動は、自立活動の時間として特設するだけでなく、教科等の中に取り入れたり、学校全体の教育活動において取り組んだりしながら指導していきます。診断名ではなく、一人ひとりの実態に応じて、どのように自立活動の指導や視点を取り入れるかを工夫していくことが必要です。（ P.13 参照 ）

確認してみよう！

★6 区分 26 項目が分かる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

★自立活動の時間を特設していなくても、自立活動の内容や視点を取り入れている・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

★個に応じた自立活動のねらいを説明できる・・・・・・・・・・・・

## (1) 基本的な考え方

特別支援学校、個別支援学級、通級指導教室においては、「自立活動」を教育課程に取り入れて教育活動を行います。

「自立活動」の指導形態は、児童生徒の実態や学級の実態に応じて、時間割りに特設し、個別又は集団で指導する形態と、日常生活や教科等、学校生活全般で指導する形態があります。個々の指導目標に応じて、指導の形態を工夫することが必要です。

自立活動においても、指導と評価を一体化させ、PDCAサイクルで指導することが大事です。個々の指導目標に基づき、6区分26項目から指導内容を選定し、必要に応じて相互に関連付けるなど、複数の項目を効果的に組み合わせ、計画的、組織的に行います。

一般学級においては、自立活動を取り入れた教育課程を編成することはできませんが、その視点を踏まえた指導や支援が望まれます。

## (2) 特別支援学校の実践例

### 【教科「体育」の中に自立活動を取り入れた例】

児童の実態 自閉症 小学2年生 特別支援学校在籍



- ・相手の動きを見て運動することが難しい。
- ・友達と協力して作業することが難しい。

#### ●体育科の目標

適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

#### ●指導内容 「体づくり運動」 ・ 「ゲーム・ボール運動」

- #### ●自立活動の目標
- ・仲よく運動する。
  - ・教師の動きを見たり、動きに合わせてたりしながら運動する。
  - ・自分のがんばったところを発表できる。

#### ●自立活動の内容・項目

2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1)情緒の安定に関すること	(1)他者とのかわりの基礎に関すること	(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

#### 具体的な指導内容 (二人組の体操・キャッチボール・二人三脚)

- ・運動の仕方やルールを知り、ルールを守って運動する。
- ・基本的な身体の動き方を知って正しく動く。
- ・教師をよく見て動く。
- ・教師や友達と仲よく運動する。
- ・声かけを受け入れる。
- ・運動後にカードを使って自分のがんばった運動を発表する。

### (3) 個別支援学級の実践例

#### 【特設した自立活動の時間での指導例】

児童の実態 自閉症 中学1年生 個別支援学級在籍



- ・勝ち負けにこだわり、負けると暴言や暴力が出る。
- ・ルールや相手の気持ちにかかわらず、自分のしたいことを優先しトラブルとなる。

#### ●自立活動の目標

- ・勝ち負けへのこだわりを軽減し、落ち着いて行動できるようにする。
- ・自分の気持ちを言葉で伝えるとともに、かかわる相手の気持ちを理解できるようにする。
- ・集団生活の基本的なルールを学び、ルールに応じた行動がとれるようにする。

#### ●自立活動の内容・項目

2 心理的な安定	3 人間関係の形成	6 コミュニケーション
(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること	(2)言語の受容と表出に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

#### ●特設した「自立活動」の時間の具体的な指導内容

- いろいろなゲーム活動を通して、勝ち負けへのこだわりを軽減するとともに、負けた時の自分の気持ちを適切な言葉で表現できるようにする。
- 集団生活の場面の「状況画」の読取を通して、守るべき基本的なルールや場面状況に応じた適切な言動を学ぶ。
- 生活場面の状況をロールプレイで読み取り、登場人物の気持ちを考える。
- ソーシャルストーリーを用いて、場面状況に応じた適切な言動を考える。
- 結果にかかわらず、友だちとゲームする楽しさを味わうことができる。

### (4) 一般学級での考え方

自閉症の特性を有する児童生徒への指導にあたっては、教科領域の特性、学校生活の様々な活動の特性に応じて、「自立活動」の中の6区分26項目を意識しながら行うことが必要になります。

児童の実態 小学校5年生 一般学級在籍



- ・知的には標準域、虫の名前や化学式など興味をもった事項は博学
- ・文字を書くのが苦手、板書のノート記入はせず、ぼんやりと過ごすことが多い。
- ・授業中、興味があることについては周りにかまわず発言する。
- ・マイペースである。自分の行動を注意されたり、指摘されたりするとかつとなり、暴言や教室からの飛び出しもある。

#### ●学級における指導目標 (短期目標 3か月)

- ・指示されたキーワードをノート記入する。
- ・挙手して指名されてから発言する。
- ・いらいらした時には、小さな声で10数える。

●具体的な配慮事項

自立活動項目からの視点				
2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の力と行動の調整に関すること	(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

気持ちが落ち着かないときにはクールダウンスペースに移動させ、落ち着いたときに視覚的な手がかりを用いて状況を説明し、理解させる。	コミック会話やソーシャルストーリーを用いて、状況や適切な行動を理解させ、達成できたときに言葉で評価する。	板書の重要事項にアンダーラインを引き、その部分だけをノート記入させる。ノートは、行の幅が広いものにする。	学級活動の中で、本人の得意な部分を披露する機会を持ち、自信をもたせるようにする。
---	--	--	--

(5) 自立活動のPDCAの実践例

